

# 品川区の皆さんへ

日頃より、羽田空港の機能強化に伴う、新飛行経路の運用にご協力いただきありがとうございます。

羽田空港の新飛行経路は、2020年3月29日から運用を開始しています。

このチラシでは、羽田空港の新飛行経路の運用に関する様々な情報をお届けします。

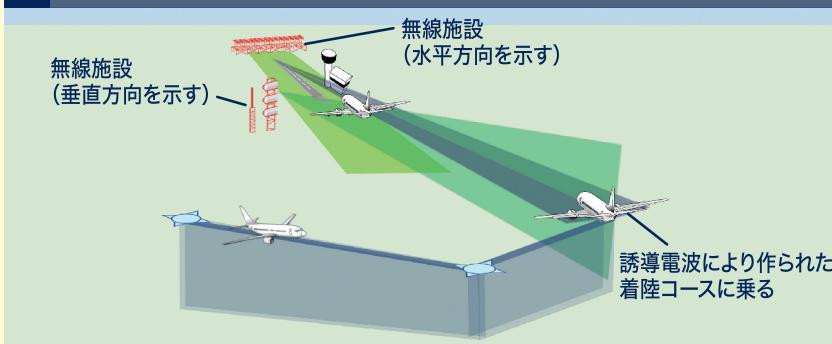


## お知らせ 第2回固定化回避検討会の開催について

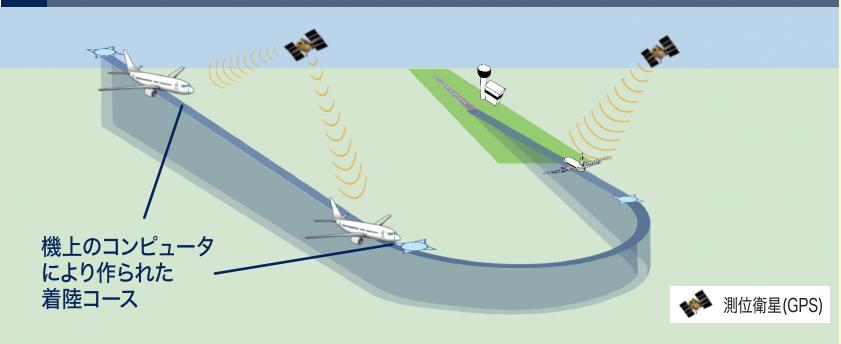
地域の皆さまのご意見・ご要望を踏まえ、検討会を設置し、新飛行経路の固定化を回避するための方策を検討しています。現在は、飛行方式の洗い出しを行い、対応可能な航空機、必要な地上施設などの論点を整理しています。複数の飛行方式に絞り込んだ上で、今年度中に、羽田空港で運用可能かどうかの観点を含め各飛行方式のメリット・デメリットを整理する予定です。

### 〈第2回検討会(2020年12月23日)で提示された飛行方式の類型〉

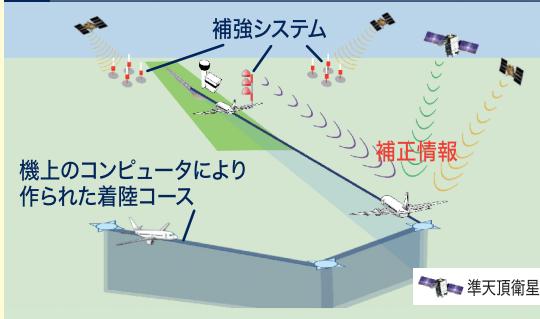
#### A 地上からの電波により着陸する方式



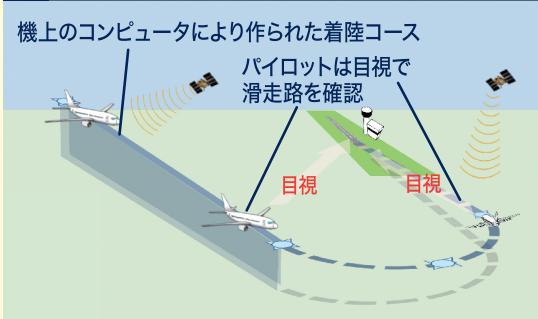
#### B 測位衛星(GPS)を使用して着陸する方式



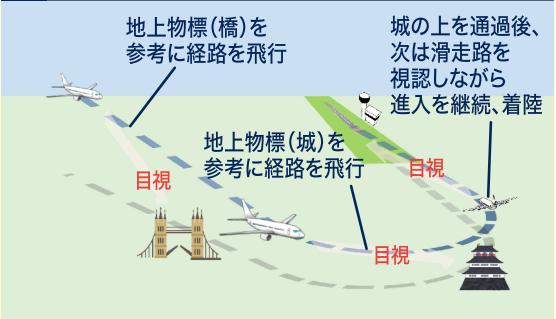
#### C 測位衛星(GPS)を使用して着陸する方式 (他のシステムにより補強)



#### D 測位衛星(GPS)を使用して着陸する方式 (目視による飛行部分を含む)



#### E パイロットの目視による進入



## よくあるご質問



新飛行経路の運用開始以降、  
皆さんから寄せられた主なご質問にお答えします。



### 今日、品川区上空を飛行しますか？



### ホームページでリアルタイムの運用状況を確認いただけます。

品川区上空を飛行する新飛行経路は、羽田空港周辺が南風の場合の15時～19時のうち3時間程度に限って運用されます（過去の実績によれば、南風運用は年間約4割であり、冬場も1割程度運用されています）。羽田空港の運用状況は、下記ホームページにて、リアルタイムにご確認いただけます。

「羽田空港飛行コースホームページ」 <https://www.ntrack.mlit.go.jp/NtrackTop/show>

トップページに  
リアルタイムの  
運用状況が表示  
されています



裏面では、9月・10月の騒音測定結果や  
落下物対策について掲載しています。

ぜひ、ご覧ください。



国土交通省



# 新飛行経路の運用状況が知りたいです。



## 区内3箇所の固定騒音測定局で常に騒音測定を行っています。

新飛行経路の運用にあたっては、飛行高度の引き上げや低騒音機の導入促進など、様々な騒音対策に取り組んでいます。品川区内には3箇所に固定騒音測定局が設けられており、常に騒音測定を行っています。[ホームページにて最新の測定結果を公開しております](https://www.mlit.go.jp/koku/haneda/new_flight_path/#01)ので、ぜひご覧ください。

「羽田空港のこれから 一新飛行経路 定期運用報告について一」  
[https://www.mlit.go.jp/koku/haneda/new\\_flight\\_path/#01](https://www.mlit.go.jp/koku/haneda/new_flight_path/#01)



事前の説明より大きな騒音が発生していませんか？

航空機の騒音は、気象条件や運航状態により変動します。

住民説明会資料においては、航空機が通過したときに発生する騒音の「最大値」の「平均」を推計した値（推計平均値）をお示ししており、実際に測定された騒音の最大値（実測値）とはズレが生じることがあります。

※これまでの住民説明会の資料は、国土交通省「羽田空港のこれから」に掲載しております。

### 新飛行経路と1時間当たりの運航予定便数



### 品川区内における9月・10月の騒音測定結果

測定局	機体サイズ	実測値の平均(dB)		推計平均値(dB)
		9月	10月	
① 東京都下水道局 南部下水道事務所 品川出張所 (A着陸)	大型機	78.2	77.5	80～76
	中型機	75.6	76.3	78～72
	小型機	74.4	74.5	77～71
② 東京都立産業技術 高等専門学校 品川キャンパス (A/C着陸)	大型機	68.9	68.4	74
	中型機	68.6	68.2	—
	小型機	67.1	67.2	68
③ 東京都下水道局 八潮ボンブ所 (A/C着陸)	大型機	71.6	69.8	74
	中型機	69.7	69.2	—
	小型機	69.2	67.8	68

■:実測値の平均が推計平均値と同等

■:実測値の平均が推計平均値以下

■:実測値の平均が推計平均値以上



新飛行経路については、実際に運航したパイロットと意見交換を行い、安全に運用されていることを確認しています。



航空機からの落下物は発生していませんか？



新飛行経路の運用開始以降、確認された落下物は0件です。

国土交通省では、落下物※には至らないものの、到着後の点検において航空機の部品がなくなっていることが確認されたもの（部品欠落）について情報収集を強化し、航空会社・メーカーと協力して原因分析を行い、対策を立てて再発防止に取り組んでいます。

※地上（空港外）で航空機の部品等が発見された場合に「落下物」として扱います。



### 〈対策事例〉 ボーイング787型機のタイヤカバー

#### 部品欠落発見

2020年6月から8月にかけて、国内航空会社のボーイング787型機のタイヤ部分のカバーのスクリュー類（計1g程度）の欠落を発見



#### 対原因検討

運航中の振動や衝撃によりスクリューが緩み脱落したことによるものと推定

#### 再発防止徹底

国から同型機を運航する国内航空会社に対し注意喚起。国内航空会社においては、当該スクリュー類に緩み止めを塗布する等の再発防止措置を実施（その後の欠落は2020年12月末まで報告されておりません。）



引き続き、騒音対策・落下物対策に取り組むとともに、地域のみなさまへの丁寧な情報提供に取り組んでまいります

羽田空港は、わたしたちの生活を支える大事な空港です。

羽田空港は、都心に近く、24時間運用されているという利便性の高さから様々な需要に対応し、世界と日本各地のヒト・モノをつなぐ大切な役割を担っている空港です。

2020年の冬ダイヤでは、国際線は世界の26か国・地域(56都市)と、国内線は日本各地の49空港※と結ばれています。このネットワークを活かして、スマートフォンや医療機器などの精密機械や、魚・肉等の生産貨物など様々な航空貨物が運ばれており、私たちの生活を支えています。

※ 現在は、新型コロナウィルスの影響により、減便・運休が発生しています。

#### 国内線利用客の約6割が羽田空港を利用

国内線利用客  
(日本全体で10,187万人)

5,972万人  
(58.6%)

国際線利用客  
(日本全体で9,270万人)

1,682万人  
(18.1%)

#### 国内航空貨物の約8割が羽田空港を使用

国内航空貨物量  
(日本全体で77.7万トン)

60.8万トン  
(78.2%)

国際航空貨物量  
(日本全体で369.9万トン)

56.2万トン  
(15.2%)

※旅客便に積載されている貨物量

※2019年度



このチラシの内容や、航空機騒音・落下物等に関するお問い合わせは

Tel:0570-001-596

受付時間7:00～20:00[土・日・祝含む]

お問い合わせ番号の一本化に伴い、2021年1月31日にて、0570-001-160の番号でのご案内は終了しました。

最新の運用報告は、ホームページからご確認ください。

羽田空港のこれから 検索

<https://www.mlit.go.jp/koku/haneda/>

